

ROTARY CLUB
ITOIGAWA



2026～27年度

R I テーマ 持続可能なインパクトを生み出そう

地区運営方針 ロータリーで人生をより充実させよう

糸魚川RCテーマ ロータリーでより楽しく



週報

糸魚川



2026.9.3
第3091例会

No.9

◆会 長 平野嘉生 ◆クラブ会報雑誌 鍋島誠
◆例 会 場 ヒスイ王国館 糸魚川市大町1-7-11 TEL.025-553-1210
◆例 会 日 毎週木曜日 12:30～13:30
◆創 立 1960年9月10日 ◆承認 1960年10月12日
◆事 務 局 新潟県糸魚川市寺町 糸魚川商工会議所内 TEL.025-552-1225
◆糸魚川RC HP <https://www.itoigawa-rc.jp/>
◆第2560地区HP <https://www.rid2560niigata.jp/>

● 本日のプログラム ●

- ・ 点 鐘
- ・ 国家 君が代
- ・ 四つのテスト
- ・ 会 歌 奉仕の理想
- ・ 会長挨拶
- ・ 幹事報告
- ・ 委員会報告
親睦委員(結婚記念日・誕生日祝)
ニコニコ箱担当委員
その他委員会
- ・ 卓話
小川喜幸ガバナー補佐 講話
- ・ 点 鐘

親睦委員会

◇9月誕生日(3名)

8日 川村 禎生君 9日 猪又 直登君
19日 岩崎 護君

◇9月結婚記念日(該当者なし)

幹事報告

◇国際奉仕フォーラム

日 時 9月6日(日)
会 場 長岡グランドホテル
出席者 小嶋君

◇地区大会チャリティーゴルフ

日 時 9月9日(水)
会 場 十日町カントリークラブ
参加者 猪又一義君、松澤君、永野克裕君
樋口君

◇第7分区IM記念親睦ゴルフ

日 時 9月26日(土)
会 場 松ヶ峯カントリー倶楽部
参加者 平野君、歌川君、小田島君、松澤君

◇第33回第7分区IM

日 時 10月3日(土)
会 場 デュオ・セレッソ

◇2026-27年度 地区大会開催案内

会 場 NASPAニューオータニ
日 時 1日目 11月7日(土)
登録受付 12:30～13:30
地区指導者育成セミナー 13:30～17:00
ロータリー親睦交流会 17:30～19:30

本日のお客様

第7分区ガバナー補佐 小川喜幸様

次回例会プログラム

◇9月10日(木)

糸魚川地域振興局 農林振興部
普及課 課長代理 小関 幹夫 様
「新潟米の品種について」

出席報告

◆8月27日(木) 20名

◆中央RCコーナー

9月4日(金)

小川喜幸ガバナー補佐 事前訪問

2日目 11月8日(日)

登録受付 8:30 ~ 9:30

本会議 9:30 ~ 15:20

ロータリー親睦交流会 15:50 ~ 18:30

※名札、ネクタイ、地区バッヂ着用

ニコニコ箱 8月27日 *****

清水 信博君 糸魚川ロータリークラブの皆様、今年のIM よろしく願いいたします。

平野 嘉生君 本間様、本日の卓話よろしく願いします。

樋口 浩君 あっという間に8月も終わりそうですね。年を取ると時間が早く流れていきます。

小田島修平君 本間さん、卓話よろしく願いします。

8月27日の卓話 *****

えちご上越農協 課長補佐

本間 守様

「新碧と越の丸なすについて」



本日は、糸魚川地域で生産されている「越の丸なす」と、新潟県で新しく育成された梨「新碧(しんみどり)」についてお話しさせていただきます。

まず、越の丸なすについてご紹介します。越の丸なすは、新潟県の園芸試験場で昭和50年から育種が始まり、昭和55年頃から糸魚川地域で栽培が始まりました。当時から東京の築地市場へ出荷しており、昭和58年には「越の丸なす」というブランド名で本格的な出荷が始まりました。

生産を続ける中では、さまざまな課題に直面しました。昭和59年頃には土壌病害が発生し、同じ場所で栽培を続けることが難しくなりました。そこで翌年から接ぎ木栽培を導入し、病害を防ぎながら生産を続けてきました。その後も、ハウス栽培やV字仕立て、収穫ネットなど、新しい技術を取り入れながら品質の向上に取り組んできました。

また、昭和61年頃には販売価格が大きく下落したこともありました。その原因を調べるため、部会の皆さんと築地市場へ足を運び、実際に出荷したナスの状態を確認しました。糸魚川を出るときにはきれいな艶があったナスが、東京に到着すると艶がなくなっていることが分かりました。市場の方からも、艶のないナスでは高い価格で販売することが難しいという話を伺い、そこから市場と情報交換をしながら、出荷方法や品質保持について改善を重ねてきました。

平成元年頃には、それまでの茶箱から段ボール箱へ変更し、現在の2kg・9玉規格へと統一しました。さらに、箱の中にグラシン紙を入れることで、輸送中の湿度を保ち、ナスの艶を維持する工夫も行っています。こうした一つひとつの改善が、現在の越の丸なすの品質につながっています。

一方で、現在大きな課題となっているのが、生産者の高齢化と減少です。越の丸なすが始まってから

長い年月が経ち、当初から栽培してきた方々が高齢となり、世代交代が必要になっています。これまで培ってきた技術を次の世代へ引き継ぐため、後継者への技術継承だけでなく、新たに農業を始める方にも栽培に取り組んでいただけるよう、新規就農者の受け入れにも力を入れています。また、土壌病害を避けるため、養液栽培など新しい栽培方法にも取り組んでいます。

越の丸なすは令和12年に50周年を迎える予定です。それまでに一人でも多くの仲間を増やし、品質だけでなく一定の生産量を確保して、これからも市場で販売していただける産地を維持していきたいと考えています。

続いて、新たな糸魚川の特産品として期待している梨「新碧」についてご紹介します。

新碧は、新潟県の研究機関で2002年から育成が始まり、2021年に品種として発表された、まだ新しい梨です。600g程度になる大きな果実で、甘みがあり、青梨であることが特徴です。特に、糸魚川の翡翠を思わせる色をしていることから、糸魚川の地域性と結びついた新しいブランドになるのではないかと期待しています。

新碧の大きな特徴の一つが、自家和合性です。一般的な梨は、自分の花粉だけでは実がつかないため、別の品種の花粉を使って人工授粉をする必要があります。しかし、新碧は自分の花粉で実をつけることができるため、人工授粉の作業を省ける可能性があります。栽培のしやすさという点でも期待できる品種です。

一方で、梨は苗木を植えてすぐに収穫できるものではありません。苗木を育ててから畑に植え、収穫できるまでには長い年月が必要です。そのため、早期収穫や作業の効率化を目的として、「ジョイント栽培」という方法も取り入れています。これは、隣り合う梨の木の枝をつないで、一つの樹のように仕立てる栽培方法です。樹勢をそろえながら、早く収穫できるようにする効果が期待されています。

現在はまだ生産量が少なく、これから産地として育てていく段階です。越の丸なすと同じように、生産者を増やし、技術を蓄積しながら、糸魚川を代表する農産物に育てていくことが目標です。

越の丸なすも新碧も、産地を維持・発展させていくためには、生産者を確保し、これまで培ってきた技術を次の世代へつないでいくことが欠かせません。これからも生産者や関係機関と力を合わせながら、糸魚川の農産物の魅力を発信し、地域の新たなブランドづくりにつなげていきたいと思います。

◆個人寄付 8月28日 (4名 10,000円)

氏名	スマイル	R財団	米山財団
清水 信博 君	1,000		
平野 嘉生 君	2,000	500	500
樋口 浩 君	1,000	1,000	1,000
小田島修平 君	1,000	1,000	1,000
合 計	5,000	2,500	2,500